

# *Smart* AVENUE

ご利用マニュアル

ブラウズ・コンテンツ編

平成12年12月

## 1 ブラウズ

サーバーへ FTP で転送したファイルは、すぐにホームページの内容として反映され、ブラウザで表示させる事が出来ます。コンテンツには、一般的な HTML 文書・GIF/JPEG などの画像ファイルをはじめ、RealAudio・Shockwave FLASH などのさまざまなデータファイルをご利用頂く事が出来ます。

### ブラウズ

コンテンツディレクトリに転送したファイルをブラウズする場合、ブラウザに入力するアドレスは以下のようになります。（ただし、コンテンツディレクトリに「index.htm」または「index.html」という名前の HTML 文書が置かれている必要があります。）

管理者用ホームページ	http://ドメイン名/
ユーザー用ホームページ	http://ドメイン名/ユーザーアカウント名/

例えば、ドメイン名が smartave.ne.jp の場合、管理者のアドレスは http://smartave.ne.jp/ となります。ユーザーのアドレスはユーザーアカウント名が「abc」の場合 http://smartave.ne.jp/abc/ となります。なお、ユーザーアカウント名の前に「~」(チルダ)を入れる必要はございません。

### コンテンツディレクトリ (ドキュメントルート)

コンテンツディレクトリは、HTML 文書や画像データなどのコンテンツを置くディレクトリです。ホームページのアドレス (URL) では、このディレクトリが一番上の階層のディレクトリとして扱われます。一般的には「ドキュメントルート」とも呼ばれます。管理者・ユーザーそれぞれのコンテンツディレクトリは、以下のディレクトリです。

管理者	/home
ユーザー	/home/[userdir] ( [userdir] の部分は実際にはユーザーアカウント名になります。)

### デフォルトドキュメント

デフォルトドキュメントとは、ブラウズを行う時にファイル名を省略してアドレスを入力する事が出来る特別なファイルです。本来、ホームページ上のデータをブラウザで開く場合は、以下の様にファイル名も含めてアドレスを入力しなければなりません。

http://ドメイン名/ブラウズするファイル名

http://ドメイン名/フォルダ名/ブラウズするファイル名

しかし、デフォルトドキュメントは以下の様にファイル名を省略しても開くことが出来ず。

http://ドメイン名/

http://ドメイン名/フォルダ名/

smartAVENUE では一般的な「index.html」と「index.htm」がデフォルトドキュメントのファイル名として設定されています。(同じディレクトリに「index.html」と「index.htm」がある場合は、「index.html」が優先されます。) デフォルトドキュメントをご利用頂くと、アドレスが短くなりますのでブラウズを行う方の入力の手間が減り、覚えやすいアドレスになります。

## パーミッション

HTML ファイルや画像ファイルなどのパーミッションは、グループに読み取り権限を設定して頂く必要がありますので、644(rw-r--r--)にして下さい。

(ファイルの転送を行った直後の初期状態は 644 になりますので、特に変更をされていなければ問題はございません。)

また、/home ディレクトリのパーミッションは 705(rwx---r-x)にして下さい。

(初期状態は 705 になっておりますので、こちらも特に変更をされていなければ問題はございません。)

なお、この後の項目でご案内している「.htaccess」ファイルや、「.htaccess」ファイルを使ったパスワード認証を行う場合のパスワードファイルは、必ずパーミッションを 604(rw----r-)にしてご利用下さい。

604 以外のパーミッションでは正常に動作しない場合があります。

## 2 .htaccess

「.htaccess」ファイルは、サーバーの動作をお客様のご希望に合わせて設定したい時に使用します。具体的には、ホームページへのアクセス制限を行ったり、初期状態では設定されていない MIME メディアタイプを追加する事が出来ます。

「.htaccess」ファイルはテキストエディタ（Windows のメモ帳や Mac OS の SimpleText など）で作成します。一定の書式に従って設定したい内容を記述して、作成したファイルに「.htaccess」という名前を付けてサーバーに転送すると、転送したディレクトリとそのディレクトリの中にあるすべてのディレクトリ・ファイルに記述した内容が適用されます。

smartAVENUE では、以下の項目（ディレクティブ）を「.htaccess」ファイルに記述してご利用頂く事が出来ます。

AuthConfig	AuthName AuthType AuthUserFile require AuthDBMGroupFile AuthDBMUserFile AuthGroupFile
Limit	allow deny other
FileInfo	AddEncoding AddLanguage AddType DefaultType ErrorDocument Language Priority

「.htaccess」ファイルの具体的な記述例を以下に記載しておりますので、記述方法がご不明な場合はこちらを参考にしてください。

### パスワード認証によるアクセス制限

正しいユーザー名とパスワードを入力しないとページの内容をブラウズ出来ない様にする方法です。

まず、認証に使用するためのパスワードファイルを作成して頂く必要があります。以下の手順でパスワードファイルを作成して下さい。

1. 管理ツールの「ADMIN MANAGER」にアクセスして、「アクセス制御用パスワードの作成」を選択して下さい。
2. 「--UserID--」の欄に認証に使う ID、「--Password--」と「--Password(確認用)--」の欄に認証に使うパスワードを入力して「暗号化」ボタンをクリックして下さい。
3. ID と暗号化されたパスワードの内容が表示されます。例えば、「smartavenue」という ID を指定した場合、以下の様な内容が作成されます。

```
smartavenue:oULio70IDgMtg
```

この内容をコピーして、Windows のメモ帳や Mac OS の SimpleText などのテキストエディタの編集画面にペーストして下さい。1 行につき 1 組の ID とパスワードを記述すれば、複数の ID とパスワードを登録する事も可能です。

4. 作成したテキストファイルに任意の名前を付け、保存して下さい。

以上でパスワードファイルの作成は完了です。なお、UNIX で htpasswd コマンドを使用出来る環境をお持ちのお客様は、上記の方法ではなく htpasswd コマンドを使用して作成して頂いても差し支えございません。

パスワードファイルの用意が出来たら、テキストエディタで以下の内容の「.htaccess」ファイルを作成して下さい。

```
AuthUserFile ~/ ( IP アドレス ) /home/ ( パスワードファイル )
AuthName ( 任意のメッセージ )
AuthType Basic
<Limit POST GET>
require user ( ユーザー名 )
</Limit>
```

( IP アドレス ) の部分にはお客様の IP アドレスを記述して下さい。

( パスワードファイル ) の部分にはパスワードファイルを置くディレクトリと パスワードファイルのファイル名を記述して下さい。

(任意のメッセージ)の部分にはユーザー名とパスワードを入力するダイアログボックスに 表示させるメッセージを記述して下さい。

メッセージにスペースが含まれない場合はそのままメッセージを記述して頂いても問題はありませんが、 スペースを含むメッセージを記述する場合は、文字列を「”(ダブルクォーテーション)で括弧して下さい。 スペースを含むメッセージをそのまま記述すると、エラーになってしまいダイアログボックスが表示されません。

(ユーザー名)の部分にはパスワードファイルを作成する際に指定したユーザー名を記述して下さい。

複数のユーザーを指定する場合は以下の様に半角スペースで区切ってユーザー名を記述して下さい。

(「smartavenue1」「smartavenue2」「smartavenue3」の3つのユーザー名を記述する場合の例です。)

```
require user smartavenue1 smartavenue2 smartavenue3
```

また、パスワードファイルに書かれているすべてのユーザー名を指定したい場合は この行全体を「require user (ユーザー名)」ではなく、「require valid-user」と記述して下さい。

例えば、IP アドレスが 123.123.123.123 で、「smartavenue」というユーザーを指定して作成した「.htpasswd」というファイル名のパスワードファイルを /home/member に置く場合は「.htaccess」ファイルを以下の様に記述します。

```
AuthUserFile ~/123.123.123.123/home/member/.htpasswd
AuthName "Input Username and Password."
AuthType Basic
<Limit POST GET>
require user smartavenue
</Limit>
```

この「.htaccess」ファイルと「.htpasswd」ファイルを/home/member に転送して ブラウザで http://(お客様のドメイン名)/member/を開くと、「Input Username and Password.」というメッセージが書かれたダイアログボックスが表示されます。 転送した「.htaccess」ファイルと「.htpasswd」のパーミッションは必ず 604(rw----r--)に設定して下さい。

## アクセス元のサイトによるアクセス制限

特定のサイトからアクセスした場合、ページの内容をブラウズする事が出来ない様にする方法です。

ある特定のサイトからのアクセスを拒否し、その他のサイトからのアクセスを許可する場合は 以下の内容の「.htaccess」ファイルを作成して下さい。

```
<Limit POST GET>
order allow,deny
allow from all
deny from (ドメイン名または IP アドレス)
</Limit>
```

(ドメイン名または IP アドレス)の部分にはアクセスを拒否したいサイトの ドメイン名または IP アドレスを記述して下さい。

ドメイン名で記述する場合は「.smartave.ne.jp」と記述すると、ドメイン名の最後が「.smartave.ne.jp」となっている全てのサイトからのアクセスを拒否する事が出来ます。

IP アドレスで記述する場合は「123.123」と記述すると、IP アドレスの最初が「123.123」となっている全てのサイトからのアクセスを拒否する事が出来ます。

例えば、ドメイン名の最後が「smartave.ne.jp」となっている全てのサイトと、IP アドレスが「123.123.123.123」のサイトからのアクセスを拒否し、その他のサイトからのアクセスを許可する場合は「.htaccess」ファイルを以下の様に記述します。

```
<Limit POST GET>
order allow,deny
allow from all
deny from .smartave.ne.jp
deny from 123.123.123.123
</Limit>
```

この「.htaccess」ファイルを/home/secret に転送すると、http://(お客様のドメイン名)/secret/ と その中のディレクトリおよびファイルに対して設定した内容が有効になります。転送した「.htaccess」ファイルのパーミッションは必ず 604(rw----r--)に設定して下さい。

### 3 ログファイル

smartAVENUE ではホームページへのアクセスログとエラーログをご覧頂く事が出来ます。

#### SSL オプションサービスをご利用のお客様へ

このページでご案内している内容は非 SSL のホームページについての内容です。

SSL 対応ホームページのログファイルについては、[4 SSL \(P13\)](#) をご参照下さい。

#### 種類と参照方法

テキスト形式のアクセスログ・HTML 形式のアクセスログ・テキスト形式のエラーログの 3 種類のログをご参照頂く事が出来ます。参照方法としては、管理ツールの ADMIN MANAGER からご覧頂く方法と FTP でサーバーからダウンロードしてファイルを直接ご覧頂く方法がございます。それぞれのログファイルと、その参照方法は以下の様になっております。

	アクセスログ (テキスト形式)	アクセスログ (HTML 形式)	エラーログ (テキスト形式)
ADMIN MANAGER	(50 件まで)		(50 件まで)
FTP でのダウンロード			

上記の表の通り、どちらの方法でもすべてのログファイルがご覧頂けます。ただし ADMIN MANAGER からご覧頂けるテキスト形式のログは最新の 50 件までとなっております。

#### ログファイル用ディレクトリ

ログファイルはサーバーの /log ディレクトリに保存される様になっております。FTP でサーバーからダウンロードする場合は管理者用アカウント(admin)を使用して FTP 接続を行い、 /log ディレクトリからファイルをダウンロードして下さい。

#### ログファイルの容量について

ログファイルはご契約頂いたディスク容量を消費します。アクセスが多い場合などはログファイルの容量が数 MB ~ 数十 MB になる場合があり、ディスク容量の不足が発生してメールの不達や CGI のデータファイルの消失等の問題が発生する場合がございますのでご注意ください。ただし、圧縮されていないテキスト形式のログファイル(access.log および error.log)はご契約頂いたディスク容量を消費しません。

なお、ログファイルが不要な場合は保存日数を 0 日に設定することにより、生成を停止させることも可能です。

## アクセスログ (テキスト形式)

テキスト形式のアクセスログは、以下のファイル名で作成されます。

ファイル名	内容
access.log	午前 3 時 ~ 翌午前 3 時のアクセスログ(テキスト形式)
access.log.*.gz	*日前のアクセスログ(テキスト形式)

拡張子が.gz となっているファイルは gzip 形式で圧縮されていますので、ダウンロード後に解凍してご覧ください。

書かれている内容は smartAVENUE で使用している WWW サーバプログラム「Apache」の標準的なフォーマットになっており、HTTP アクセス 1 回ごとの詳細な情報が記録されています。書式は以下の様になっています。

```
(host) - - [(date)] "(request)" (status) (bytes) "(referer)" "(user-agent)"
```

(host)はアクセスしたクライアントのドメイン名(FQDN)または IP アドレスです。

(date)はアクセスがあった日時です。

(request)はクライアントからのリクエスト内容です。

(status)はクライアントに返された HTTP ステータス番号です。

(bytes)はクライアントに送信されたデータのバイト数です。

(referer)は環境変数 Referer の値です。リンク元のページのアドレスが記録されます。

(user-agent)は環境変数 User-Agent の値です。ページを参照しているクライアント (ブラウザ) の情報が記録されます。

例えば、アクセスログに以下の情報が記録されていたとします。

(長いため途中で改行していますが、実際には 1 行に記録されます。)

```
abc.smartave.ne.jp - - [13/Jan/2000:16:20:21 +0900]
"GET /counter.html HTTP/1.1" 200 600
"http://abc.st123.smartave.ne.jp/index.html"
"Mozilla/4.0 (compatible; MSIE 5.5; Windows NT 5.0)"
```

この部分からは、

abc.smartave.ne.jp というドメイン名のクライアントから  
日本時間の 2000 年 1 月 13 日 16 時 20 分 21 秒に  
GET /counter.html HTTP/1.1 というリクエストがあり、  
200 という HTTP ステータスと  
600 バイトのデータを返し、  
このアクセスのリンク元は http://abc.st123.smartave.ne.jp/index.html で、  
クライアントは Windows 2000 版の Internet Explorer 5.5 ( Windows NT 5.0  
は Windows 2000 を意味しています。)

という事がわかります。

## アクセスログ (HTML 形式)

HTML 形式のアクセスログは、以下のファイル名で作成されます。

ファイル名	内容
stat_*.html	*日前のアクセスログ(HTML 形式)

HTML 形式のアクセスログは wwwstat というログファイル集計ツールによって、テキスト形式のログファイルの内容を項目別に集計したものになっております。それぞれの項目の意味は以下の様になっております。

## アクセスログの集計対象日

アクセスログの集計対象日です。

「Aug 30 2000」の場合、2000 年 8 月 30 日である事を示しています。

## 1 日あたりのアクセス回数・転送データ量

集計対象日 1 日に発生したすべてのアクセス回数と転送データ量の合計です。

%Reqs はアクセス回数全体における割合です。

%Byte は転送データ量全体における割合です。

バイト数は転送データ量 (単位: バイト) です。

リクエストはアクセス回数です。

日付はアクセスログの集計対象日そのまま表示されます。

## 時間別のアクセス回数・転送データ量

どの時間帯にどのくらいアクセスがあったかをご覧くださいることができます。

%Reqs はアクセス回数全体における割合です。

%Byte は転送データ量全体における割合です。

バイト数は転送データ量（単位：バイト）です。

リクエストはアクセス回数です。

時間はアクセスのあった時間帯です。例えば 00 の場合、00:00～00:59 を表しています。

## クライアントのトップレベルドメイン別のアクセス回数・転送データ量

ページにアクセスを行ったクライアント（ページを参照したコンピュータ）のトップレベルドメインが記録されています。

%Reqs はアクセス回数全体における割合です。

%Byte は転送データ量全体における割合です。

バイト数は転送データ量（単位：バイト）です。

リクエストはアクセス回数です。

ドメイン名はクライアントのトップレベルドメインです。

## クライアントのサブドメイン別のアクセス回数・転送データ量

ページにアクセスを行ったクライアントのサブドメインも含めたドメイン名（FQDN）が記録されています。

%Reqs はアクセス回数全体における割合です。

%Byte は転送データ量全体における割合です。

バイト数は転送データ量（単位：バイト）です。

リクエストはアクセス回数です。

サブドメイン名はページにアクセスを行ったクライアントのドメイン名（FQDN）です。

ドメイン名はフィールドが反転して表示されます。例えば、jp.ne.smartave.www となっていれば www.smartave.ne.jp からのアクセスを示しています。

## アクセスされた URL（ファイル）別のアクセス回数・転送データ量

どのファイルに対して、どのくらいのアクセスがあったかが表示されています。HTML ファイルへのアクセス回数をご覧くださいと、ページごとのアクセス回数をご覧くださいことができます。

%Reqs はアクセス回数全体における割合です。

%Byte は転送データ量全体における割合です。

バイト数は転送データ量（単位：バイト）です。

リクエストはアクセス回数です。

URL（ファイル）はアクセスされた URL（ファイル）のパスです。

## エラーログ（テキスト形式）

エラーログは、以下のファイル名で作成されます。

ファイル名	内容
error.log	午前 3 時 ~ 翌午前 3 時のエラーログ（テキスト形式）
error.log.*.gz	*日前のエラーログ（テキスト形式）

拡張子が.gz となっているファイルは gzip 形式で圧縮されていますので、ダウンロード後に解凍してご覧ください。

書かれている内容は smartAVENUE で使用している WWW サーバプログラム「Apache」の標準的なフォーマットになっており、ページが参照された時や CGI が実行された時にエラーが発生するとそのエラーの情報が記録されます。書式は以下の様になっています。

```
[(date)] [error] [client (ipaddress)] (error)
```

(date)はアクセスがあった日時です。

(ipaddress)はアクセスしたクライアントの IP アドレスです。

(error)は発生したエラーの内容です。

例えば、エラーログに以下の情報が記録されていたとします。

```
[Thu Jan 13 16:13:38 2000] [error] [client 123.123.123.123]  
File does not exist: /home/abc.html
```

この部分からは

```
日本時間の 2000 年 1 月 13 日 16 時 13 分 38 秒に  
123.123.123.123 という IP アドレスのクライアントからアクセスがあり、  
File does not exist: /home/abc.html という内容のエラーが発生した
```

という事が分かります。

発生するエラーの内容には様々なものがございますが具体的な内容が英語で記録されますので、ページの表示が正常に行われない場合や CGI の実行が失敗してしまう場合などはエラーメッセージの内容をご覧くださいと原因が特定出来る場合がございます。

## 保存期間と作成時間

ログファイルはいずれも 1 日分ごとに 1 つのファイルにまとめられ、設定した保存日数分サーバーに保存される様になっています。設定されている日数が経過したログファイルはサーバーから自動的に削除され、ご覧頂く事は出来なくなります。削除されたファイルを復旧する事は出来ませんので、保存しておきたい場合は削除される前にサーバーから FTP でダウンロードして下さい。

保存期間は 0 日 ~ 40 日の範囲で任意に設定する事が出来ます。初期状態では 7 日に設定されていますので、変更をご希望の場合は ADMIN MANAGER で設定を変更して下さい。なお、0 日に設定すると /log ディレクトリへのログファイルの保存は行われなくなり、当日のテキスト形式のログ以外はご覧頂けなくなります。

すべてのログファイルは午前 7 時過ぎにファイル名の変更・削除処理が行われます。例えば、access.log.1.gz は翌日の午前 7 時になるとファイル名が access.log.2.gz に変わり、さらに翌日の午前 7 時には access.log.3.gz に変わります。

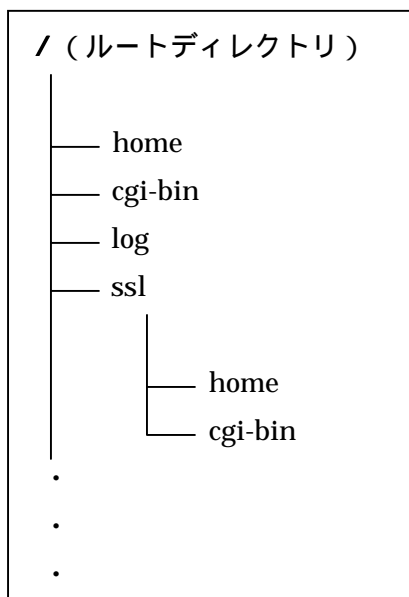
なお、access.log および error.log には午前 3 時 ~ 翌午前 3 時までのテキスト形式のログが記録されています。直前の 50 件以上前のログをご覧になりたい場合は、こちらのファイルを FTP でダウンロードしてご覧下さい。また、誤って access.log および error.log を削除してしまった場合は翌日午前 3 時に自動的に再作成が行われますので、それまでお待ち下さい。

## 4 SSL

### ファイル転送

SSL オプションをお申し込み頂くと、お客様の smartAVENUE サーバーのルートディレクトリに ssl という ディレクトリが出来ます。

さらにその中に、home と cgi-bin という 2 つのディレクトリが出来ますので、SSL 用のコンテンツは非 SSL のコンテンツとは別に /ssl/home ディレクトリと/ssl/cgi-bin ディレクトリの中に置いて下さい。



非 SSL のディレクトリと同様、/ssl/home ディレクトリには HTML 文書や画像ファイル等のコンテンツ、/ssl/cgi-bin ディレクトリには CGI のファイルを置いて下さい。

なお、SSL ディレクトリへファイル転送を行えるのは管理者用アカウントで FTP 接続した場合のみです。ユーザー用アカウントでサーバーに FTP 接続した場合は SSL ディレクトリが見えませんが、ファイル転送を行う事が出来ません。

### ブラウザ

/ssl/home ディレクトリと/ssl/cgi-bin ディレクトリをブラウザで開く時のアドレス ( URL ) は以下の様になります。

/ssl/home	https://ドメイン名/
/ssl/cgi-bin	https://ドメイン名/cgi-bin/

### ログファイル

/ssl ディレクトリ内に置いた SSL コンテンツに対してのアクセスログやエラーログのファイルは非 SSL コンテンツの場合と同様、/log ディレクトリに作成されます。ログファイルのファイル名は以下の様になります。

ファイル名	内容
access_ssl.log	午前 3 時 ~ 翌午前 3 時のアクセスログ ( テキスト形式 )

access_ssl.log.*.gz	*日前のアクセスログ (テキスト形式)
stat_ssl_*.html	*日前のアクセスログ (HTML 形式)
error_ssl.log	午前 3 時 ~ 翌午前 3 時のエラーログ (テキスト形式)
error_ssl.log.*.gz	*日前のエラーログ (テキスト形式)

「\*」の部分は何日前のログかを示す日数になります。 ログファイルの内容等につきましては非 SSL コンテンツのものと同一になりますので、[3 ログファイル \(P7\)](#)をご参照下さい。

これらのファイルは FTP でダウンロードしてご覧頂く事が出来ます。 拡張子に.gz が付いているファイルは gzip 形式で圧縮されていますので、 gzip 形式のファイルを解凍出来るソフトを使用して解凍して下さい。

### 対応プロトコル

smartAVENUE の SSL 機能は HTTP プロトコルに対してのみ有効になります。 FTP ・ SMTP ・ POP プロトコルは、SSL オプションをご利用になっている場合でも SSL での通信を行う事は出来ません。

### クライアントへの証明書請求

SSL のサーバーの中にはクライアントへ証明書を要求するサーバーがございますが、smartAVENUE のサーバーはクライアントへの 証明書の要求は行いません。